

環境影響評価審査書

16

池子米軍住宅建設事業（小学校建設）

I 総括事項

池子米軍家族住宅建設事業（以下「対象事業」という。）に係る小学校建設事業は、昭和62年9月8日に事業者である横浜防衛施設局から提出された環境影響予測評価書の事業計画を変更し、対象事業の一環として実施しようとするものである。

対象事業は、逗子市と横浜市にまたがる旧米軍弾薬庫であった米軍提供用地約290ヘクタール（現在「池子住宅地区及び海軍補助施設」となっている。）のうち、逗子市池子地区の約85ヘクタール（以下「対象事業区域」という。）に、横須賀地区における米軍の家族住宅不足の解消を図るため、日本国とアメリカ合衆国との間の相互協力及び安全保障条約（いわゆる「日米安全保障条約」）に基づき、米軍に提供する家族住宅及び関連施設を建設するもので、平成10年3月31日には当初計画していた854戸の家族住宅及び関連施設の建設は完了し、その供用を開始したところである。

対象事業区域内には小学校がなく、小学校児童（日本の幼稚園児から小学5年生に相当する児童。以下同じ。）は、横須賀海軍施設内の学校まで通学しており、長時間通学が負担となっている。このため事業者は、小学校を建設することとし、完成までの当面の措置として小学校児童のうちの低学年（日本の小学3年生以下に相当する児童）を対象とする簡易な学校を対象事業区域内に建設した。

この簡易な学校については平成10年8月から供用しており、その後、平成16年12月15日に、この簡易な学校に代わる小学校児童全体を対象とする小学校を、対象事業区域を拡大して建設することを内容とする事業計画の変更がなされたため、環境影響評価手続を改めて行うこととなったものである。

以上のような経緯から、対象事業に係る小学校建設事業（以下「本件事業」という。）は、対象事業区域の北西側に隣接した面積約2.16ヘクタールに対象事業区域内の約0.3ヘクタールとを合わせた計約2.46ヘクタールの土地（以下「実施区域」という。）に、小学校児童数約800人を想定した鉄筋コンクリート造3階建て延べ床面積約9,650平方メートルの校舎と、屋外休憩所、屋外遊具場、運動場、芝生広場、駐車場その他の施設を建設しようとするものである。

実施区域は、コナラ、スダジイ等の高木を中心とした森林、いわゆる「池子の森」の南端の集水域となる谷戸部で、かつて土地の改変のあった谷底平坦地に位置し、セイタカアワダチソウススキ群落、コウゾーヤマグワ群落等の草地、低木及び垂高木を中心とした比較的自然度の低い植生分布であるものの、カワチシャやヌマダイコン等の貴重な植物やホタル等の貴重な動物も確認されている。また、その周辺においてオオタカ等の希少猛禽類の生息が確認されている。

こうした実施区域及びその周辺の豊かな自然環境に対して、本件事業の実施により影響を与えることが懸念されるため、神奈川県環境影響評価審査会で貴重な動植物の生息環境の保全に関して慎重に審査を行い、特にオオタカの保全対策について

は部会を置き集中的に審査を行ってきた。

その結果、本件事業の実施に当たっては、次の基本的視点を十分に配慮し、周辺
の環境に及ぼす影響を軽減するため、最大限の環境保全対策を講じる必要がある。

○ 実施区域においてはホタル等の貴重な昆虫類、貴重な植物が、またその周辺に
はオオタカの生息が確認されていることから、それらの生息環境に係る保全対策を
より慎重に講じる必要がある。

○ 実施区域及びその周辺は、集水域となる谷戸と森林が一体となった豊かな生態
系を有していることから、予測及び評価に当たっては、生態系の特性を十分に踏ま
える必要がある。

基本的な視点は以上のとおりであるが、本件事業の環境影響予測評価書案に係る
各評価項目等についての個別的な審査結果は、次のとおりである。

事業者は、環境影響予測評価書の作成に当たっては、これらの内容を十分に踏ま
え、適切な対応を図る必要がある。

II 個別事項

1 動物

（1）ホタルの生息環境の保全対策について

ホタル等の移植先としている上流水路は十分に良好な生息環境が整っていると
はいえないことから、小学校建設に先立ち、新たに生息環境に配慮した多自然型

水路を整備すること。また、移植は、多自然型水路の生息環境が整った適切な時期に行うこと。

（2）オオタカの保全対策について

北側運動場については、運動場の一部を削減することによりオオタカの生息環境に配慮しているが、更に、北側運動場の施設設計についても配慮に努めること。

また、施設建築物については、屋上や壁面の緑化及び窓ガラスへの衝突防止対策などに努めること。

2 植物

貴重な植物であるカワチシャ及びヌマダイコンの保全対策は、調査範囲内の同質の環境に移植を行うとしているが、適切な時期を選定し、慎重に行うこと。

3 生態系

生態系を草地生態系及び森林生態系の2つの区分で予測及び評価を実施しているが、実施区域及び実施区域の周辺は、集水域となる谷戸と森林が一体となった自然環境特性に適した様々な生態系が成り立っていることから、2つの区分による予測及び評価では十分とはいえない。そこで、生態系ユニットの区分をより詳細に分析した上で予測及び評価を行うこと。